

# ぬまた 市議会だより

第81号

3月定例会

令和8年  
5月1日



令和7年度沼田市白沢保育園卒園式  
3月26日

内容 令和8年度予算  
3月定例会 など



沼田市議会HP

# 3月 定例会

3月定例会は、2月24日に開会し、3月16日までの21日間、市当局からの報告、条例の制定・改正、令和8年度一般会計予算、令和7年度補正予算など計36件を審議しました。また、10人の議員が一般質問を行い、市当局と活発な議論を展開しました。

## 令和7年度一般会計補正予算専決処分報告

令和7年度補正予算では、物価高対応子育て応援手当支給事業が専決処分として報告されました。

これは国の総合経済対策によるもので、物価高騰により厳しい状況にある子育て世帯の支援として実施されています。

## 令和7年度一般会計補正予算

国県支出金の確定や制度改正等に伴う増減、および緊急に措置すべき事項に限定して編成し、歳入歳出それぞれ3億9,717万円を減額し、総額を245億5,293万7千円とするものです。主な補正内容は、総務費・民生費・衛生費・農林水産業費・土木費・消防費・教育費・災害復旧費等の増減補正、

および国庫・県支出金、基金繰入金、市債等の整理です。また、地方債の補正を行うものです。

## 沼田市温泉休養施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正

白沢高原温泉望郷の湯と南郷温泉しやくなげの湯において、昨今の歴史的な物価高騰や最低賃金の継続的な引上げ等による人件費の高騰などにより、運営経費の大幅な増加がその経営に大きな影響を及ぼしています。今後、両施設の安定的な経営を確保し、利用者へのサービスの維持・向上に資するため、経費の見直しなどによる経営改善、老朽化した施設の修繕等に加え、施設の主たる収入源である入館料等の見直しを行うものです。

## 条例に反対 (一部抜粋)

望郷の湯、しやくなげの湯の料金改定が行われますが、コロナ禍以前の来館者にいまだ回復しない中、料金改定を行うことで近隣町村の施設に利用者が流れ、望郷の湯、しやくなげの湯とも開館から20年以上となり、大規模改修の時期を迎えています。大規模改修の計画、接遇の改善、イベントの実施などによる来館者に楽しんでもらう企画など、総合的な対策を検討する中で料金についても検討するべきです。



望郷の湯



しやくなげの湯

## 沼田市民健康保険条例の一部を改正

子ども・子育て支援金制度の創設に伴い、新たに子ども・子育て支援納付金分の規定を整備するほか、日本人を含む海外からの転入者の初年度における国民健康保険税について、通常の納期限を前倒しして納付させることができる仕組みを導入するための改正です。

この制度は、全国的に進められている少子化対策の一環として、子ども・子育て支援の財源を確保することを目的としています。また、海外からの転入者の保険税について納付時期を調整する仕組みを整えることで、国民健康保険制度の公平性を確保

し、安定した運営につなげることを目的としています。

## 条例に反対（一部抜粋）

新年度から国保税に「子ども・子育て支援金」が上乗せされることとなりますが、何に活用するのかも不明確であり、そもそも子育て支援を充実させるというなら医療保険に上乗せさせるのではなく、現行の税で対応すれば済むことであり、新たな負担は認められません。



## 沼田市企業誘致推進条例の一部を改正

優遇措置の指定を受けることのできる企業の業種を拡大することともに、市内において新たに

オフィスを開設した当該優遇措置の指定を受けた企業に助成金を交付するに当たり、関係する条文を整備するための改正です。これにより、これまで対象外であった分野の企業についても誘致の対象となり、市内への企業進出を促進することが期待されます。

企業の進出は、地域経済の活性化や新たな雇用の創出にもつながることから、沼田市の持続的な発展を目指す取組の一つです。



沼田横塚産業団地造成工事

## 沼田市消防団に関する条例の一部を改正

沼田市消防団員の年齢制限および報酬等の見直しをするに当たり、関係する条文を整備するための改正です。

近年、全国的に消防団員の担い手不足が課題となっており、地域の防災力を維持するためには団員の確保が重要となっています。

今回の改正は、消防団活動に参加しやすい環境を整え、地域の安全・安心を支える消防団の体制強化を図ることを目的としています。



## 沼田市特定乳児等通園支援事業の運営に関する基準を定める条例の制定

子ども・子育て支援法等の一部を改正する法律の公布に伴い、特定乳児等通園支援事業（こども通園制度）実施に当たり、事業の運営に関する基準を定めるため、条例を制定するも

のです。この事業は、すべての子どもたちの育ちを応援し、良質な教育環境を整備するとともに、すべての子育て家庭に対して支援を強化するためのものです。

## 沼田市立学校設置条例の一部を改正

令和9年度から令和12年度にわたり段階的に進める市内小中学校の統廃合等を行うに当たり、条例の一部を改正するものです。改正の内容は、令和9年度においては、池田小学校と薄根小学校、池田中学校と薄根中学校の各統廃合とともに、これら学校の名称を変更するほか、沼田中学校と沼田東中学校の統廃合および利南東小学校の移転、さらには白沢中学校と利根中学校の統廃合を行うものです。また、令和10年度においては、沼田東小学校と沼田北小学校、令和12年度においては、沼田中学校、沼田南中学校、沼田西中学校の各統廃合を行うものです。

# 令和 8 年度予算



対前年度比  
12億2,000万円増

## 一般会計 237億6,800万円

令和8年度一般会計予算ほか4件の特別会計予算、3件の企業会計予算、予算関連議案9件が予算審査特別委員会に付託され、委員長に野村洋一議員、副委員長に木内修一議員を選出し述べ6日間にわたり審査が行われました。

令和8年度一般会計予算、特別会計予算、および企業会計予算の総額は、401億2,124万8千円、対前年度比3・5%増となっています。

厳しい財政状況の中、新たな事業として防災マップ改訂版作成、こども誰でも通園制度、スクールバス購入事業、水道料金(基本料)減免事業などが盛り込まれ、また、市町村乗合バス運行事業、3・3・1環状線(栄町工区)事業、給食費完全無償化などに継続して取り組むことが示され、課題解決と未来への投資として積極的な事業展開を目指そうとする姿勢を評価し、いずれの議案も原案のとおり可決されました。

## 予算の基本方針

### 予算編成のキーフレーズ

課題解決と未来への投資 ～着実に、<sup>あす</sup>明日の沼田へ～

### 予算編成の基本方針

- ☆課題解決の実践
- ☆子育て支援
- ☆生活基盤の整備
- ☆市内経済の活性化

**予算に賛成** (一部抜粋)  
令和8年度予算は、限られた財源の中、企業誘致推進事業、小学校校舎等整備事業、浄水場改築更新事業などの優先主要事務事業、防災マップの改訂や健康診査事業における若年者健診などの新規事業に加え、森林文化都市沼田市らしい事業にも力を入れていることが分かります。

### 予算審査特別委員会での討論内容

**予算に反対** (一部抜粋)  
人口減少が加速的に進む中、全国の市町村では子育ての経済的負担を軽減するため保育料の無償化や副食費の無償化に取り組んでいるところも多く、沼田市でも小学生の給食費を国が財政的に支援することになったことを受け、その財源は子育て支援の充実に使うべきです。

# ココが気になる!! 新年度予算

議案の審査に当たり、市に対して様々な質疑を行いましたので、一部を紹介します。

## ファシリティマネジメント事業

**予算額** 2億3,211万5千円

**Q** これまでの事業成果と課題についてどのように検討しているのか

**A** 沼田市公共施設等総合管理計画において掲げた40年間で公共施設等の総延べ面積を40%削減するという目標に対して、令和6年度末までの8年間で9.08%の削減となっています。また、6年目を迎える包括施設管理業務では、各施設所管課の事務負担が大幅に軽減され、効率的な施設管理が行えたと考えています。そのほか、庁舎の空きスペースを有効活用した自動販売機、証明写真機、デジタルサイネージの設置、土地や建物の貸付け、エネルギーサービスプロバイダー業務、公用車への広告掲載、官公庁オークション、ファシリティマネジメント職員研修会の実施などが成果であると考えています。次に課題についてですが、建設物価やエネルギー価格の高騰への対応に加え、学校再編に伴う学校跡地の利活用と考えています。



## 企業誘致推進条例の一部改正

**Q** 対象業種を拡大する目的と今後の影響について

**A** 対象業種を拡大することにより、本条例に規定する助成金の活用をきっかけにした新たな企業の進出の促進を目的としています。業種を拡大したことにより、多様な業種の企業誘致につながると考えています。



## 下田市姉妹都市提携60周年記念事業

**予算額** 256万5千円

**Q** 事業内容について

**A** これまでの友好関係を振り返るとともに、今後の交流のさらなる発展を目指して、両市の関係者による交流会の開催や、記念植樹などを予定しています。

また、市民交流の促進を目的として、5月15日（金）から17日（日）の3日間にわたり、下田市で開催される下田黒船祭に合わせて、市民訪問団を募集し、交流事業に参加していただくことも計画しています。



## ひとを守る・まちを守る 防災ぬまた推進事業

**予算額** 1,391万2千円

**Q** 防災マップの改訂内容について

**A** 本市で作成している防災マップはおおむね5年ごとに改訂して、全戸に配布させていただいています。現在、配布している防災マップは令和3年2月に改訂したものであり、5年が経過することに加え、令和8年5月下旬から気象台などが発表する防災気象情報の発表の方法が変更になることや、土砂災害警戒区域等の軽微な変更などがあることから、これらの情報を更新するものです。



## ごみ減量化対策事業

**予算額** 1億4,240万1千円

### Q リチウムイオン電池の回収について

**A** リチウムイオン充電電池を内蔵する家電製品が収集車内で発火する事故が発生したことから、現在では市役所本庁舎や各コミュニティセンター、保健福祉センターに設置された「使用済小型家電回収ボックス」により、リチウムイオン充電電池および、それらを内蔵した家電製品の拠点回収を実施しています。新年度においても、火災事故を未然に防ぐため専用の拠点による回収を行っていく予定です。



## デザインマンホール制作業務委託料

**予算額** 514万円

### Q 事業内容とデザインマンホールについて

**A** 観光客の回遊促進につながる地点を基本とし、安全性や維持管理面にも配慮しながら、効果的な配置となるよう検討し、企業からの協賛金を活用することにより、市の財政負担の抑制を図りながら実施します。効果の検証については、ARコンテンツのアクセス数、設置箇所周辺の来訪状況、周遊促進の状況などのデータの推移等を把握・分析し、本事業による効果を総合的に検証したいと考えています。



## 市民文化活動推進事業

**予算額** 1,075万9千円

### Q どのような事業展開をするのか

**A** 生涯学習講座を開講するとともに、受講生や自主活動サークルの方々が日頃の学習成果を発表する機会として、『生涯学習発表会』を開催します。市民の皆さまによる幅広い文化活動の集大成として、文化祭、伝統芸能発表会、市民音楽祭などを計画的に実施し、誰もが芸術文化に親しみ、その成果を分かち合える環境づくりを推進していきたいと考えています。



## スクールバス購入事業

**予算額** 5,897万7千円 (小・中学校合計)

### Q どの路線に利用するのか

**A** 小学校におけるスクールバスの購入については、令和9年度中に予定している利南東小学校の移転に伴うものであり、運行路線としては、移転後の利南東小学校と、上久屋町方面および下久屋町下段方面間の運行を予定しています。



## 乳児等支援給付事業

**予算額** 594万6千円

### Q 事業内容と準備状況について

**A** 年齢の近い子どもとの関わりを通じて、子どもの成長発達の促進を図るとともに、保護者の育児不安の解消や育児負担の軽減が図られるものと考えています。生後6か月から満3歳未満で、保育所等に通っていない子どもを対象に、月10時間までの利用枠の中で、時間単位で柔軟に利用できる「乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）」が、令和8年度から実施されることに伴い、国が定める公定価格に基づき、提供した利用時間の実績により給付を行うものです。また、こども誰でも通園制度総合支援システムへの登録等の準備を進めています。



## 森林環境事業

**予算額** 3,777万8千円

### Q 事業内容について

**A** 森林の有する多面的機能の維持・増進を目的に、間伐等の森林整備への支援を行うもので、森林環境譲与税を活用し、森林経営管理制度を運用することにより、手入れ不足の森林に対し適切な整備を行います。また、市民が木とふれあい、親しみを感じていただく機会を創出するため木育を推進します。



## 市政運営の総括と次年度以降の方向性について

鈴木 誠



**Q**市長就任から現在までの市政運営を、どのように総括しているのかについて伺います。

**A**私自身に課せられた職責の重大さを痛感しつつ、厳しい財政状況の中で、市民の皆さまの負託に応えるべく、本市発展のため、真摯に取り組んできました。10年後を見据えた各種施策のスタートを切れたものと考えています。

**Q**市政運営において大切にできた考え方や姿勢について伺います。

**A**「市民が主役・対話の市政」を基本理念とし、市政運営に取り組んできました。市民の皆さまから直接ご意見を伺える機会を可能な限り設け、各種施策に反映してきました。今後も市民の皆さまとの対話を大切にしながら、市民生活の安定と向上に資する施策の充実を図り、持続可能なまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。

**Q**現在の財政状況に対する認識について伺います。

**A**大型事業実施に伴う今後到来する歳出のピークを見据え、全所属でもって大型事業実施可能な財政構造の構築に取り組ましましたが、当初予算における自主財源の割合は38・9%と、国からの財源に依存しており、依然として厳しい財政状況であると認識しています。

**Q**次年度以降の市政運営の方向性について伺います。

**A**厳しい財政状況下において、非常に多くの課題が山積してはいますが、今後も、市民、市議会、職員との対話を軸に、持続可能な財政構造の構築を図りながら、沼田市発展のため、全力を傾注していく決意です。



## 強い地域経済と豊かな生活環境の整備について

小野塚 正樹



**【**農林業で稼ぐ方法について**】**

**Q**農業者の減少、資材の多くを海外から輸入に頼る不安定さ、温暖化による栽培への影響や農家が価格を決めにくい市場構造など、課題があります。

また林業についても、木材需要の低迷、海外木材との競争などで採算が合わず衰退を余儀なくされています。

そこで現在、市が行なっている稼げる農林業の構築に向けた取組を伺います。

**A**近年の農業を取り巻く環境は、資材や燃料の高騰、猛暑などの気候変動により、大変厳しい状況であると認識しています。

農業の所得向上を目指すには、農産物等の付加価値を高めることなどが重要であることから、本市においては、めまらブランド農産物認証制度による認証を行い、農産物等の高付加価値化に取り組んでいます。加えて、認証された農産物等

については、6次産業化推進協議会が主催する、県内外のバイヤーを招いての商談会や生産者のほ場などの現地見学を実施し、生産者とのマッチングによる販路拡大を図るとともに、引き続き農業経営力の向上に努めていきたいと考えています。

また、林業については、長期にわたる木材価格の低迷により、林業で稼ぐことが困難な状況です。市としては、間接的ではありますが、補助事業等による支援を通じて、林業経営の所得向上につなげていきたいと考えています。



農林業で稼ぐ沼田市

# 一般質問

## 豊かなまち、沼田市の実現にむけて

山宮 敏夫



**Q**市の将来像について伺います。  
**A**市民憲章、森林文化都市宣言の理念を踏まえつつ、まちづくりの将来像を示していきたいと考えています。

**Q**経費削減と経済効果向上の取組と積極財政について伺います。

**A**市民の視点を重視しながら、財政健全化部会を設置し、事業の精査と事業費の削減に取組んできました。また、必要に応じて民間の力をお借りしながら各種施策の推進に努めていきたいと考えています。

観光面においては、関係機関・団体、各施設や事業者と連携しながら、推進していきたいと考えています。

企業誘致の関係については、企業誘致専用のウェブページやPR動画による情報発信に加え、トップセールスによる企業訪問を実施し、複数の企業と意見交換を行っています。

広域における経済効果向上の取組については、県内の自治体

や関係機関と認識を共有し、広域的な視点に立って経済の活性化を図っていくことが、これまでに以上に重要であると考えています。

減税による経済効果向上の取組については、市税の減少は行政サービスの低下を招き、市民生活に影響を及ぼす懸念があります。

沼田市財政の回復策の検討については、財政健全化部会を設置し、歳出と歳入の両面から、本市財政の回復に向けた検討を行ったものです。

**Q**市の将来的なビジョンについて伺います。

**A**現在策定作業を進めている沼田市第七次総合計画において、本市の目指すべき将来像として示していきたいと考えています。



## 人口減少における対応と企業誘致について

茂木 清七



**Q**人口減少に歯止めをかけるための取組および、不妊治療に向けた取組について伺います。

**A**不妊治療をされている夫婦の経済的負担を軽減するため、夫婦負担額の2分の1、年間10万円を限度に通算5回まで助成を行っています。

**Q**将来、子どもを持つために若年層の男女に考えていただくブレコンセプションケアに対する取組について伺います。

**A**本年度、市内の中学校1校と、高等学校1校において、プレコンセプションケアの説明や助産師による講座を開催し、啓発を推進しています。

**Q**沼田横塚産業団地の企業誘致の進捗状況と受け入れについて伺います。

**A**企業の拠点整備においては、災害リスクの低さや、電力をはじめとするインフラの安定性など優良な立地環境にあり、こうした強みを生かし企業誘致に取組んでいるところです。

**Q**粗飼料高騰による影響と、畜産農家への支援について伺います。

**A**本年度、国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し「酪農・肉用牛経営継続支援金を交付してきましたが、依然として粗飼料の高騰が続いているため、対応施策の拡充に向けて、国・県へ要望してまいります。

**Q**ぬまたブランド農産物販路拡大に向けた取組について伺います。

**A**昨年6月にバイヤーマッチング支援事業により、出展者21名とバイヤー33名が参加しました。引き続き付加価値の創出に努めていきます。



沼田市子ども家庭センター（沼田市所 沼田市所）  
 (株)社会保険出版社発行  
 パンフレット

# 文化芸術によるまちづくりについて

相澤 宗利



Q本市に存在する国指定重要文化財および天然記念物等を現在どのようにに活用しているのか教育長に伺います。

A本市においては、国指定文化財として、重要文化財の「旧生方家住宅」と、天然記念物の「薄根の大クワ」天然記念物および名勝の「吹割溪ならびに吹割瀑」の3件があります。

「旧生方家住宅」については、一般公開するとともに、春は沼田茶道会によるお茶会、秋はワークショップなど、市民が文化財に親しみ足を運んでもらえるような行事の開催により、適切な保存を行いながら活用に努めているところです。

「薄根の大クワ」については、昨年7月、群馬テレビの『ぐんま！トリビア図鑑』で紹介され、「吹割溪ならびに吹割瀑」については、ロケ地として数多くのメディアに取り上げられるなど、情報発信と併せて適切な保護対策に努めているところです。

Q歴史まちづくり法に基づく「歴史的風致維持向上計画」の策定、ならびに歴史的風致地区の設定をし、その歴史的風致を生かしつつ、後世に残していくことが本市にとって有益なことを考えますが、その検討について伺います。

A将来につながるまちづくりを進めるために、市内の様々な要素の歴史的風致の価値を明らかにし、後世に継承することは、大変重要なことと認識しています。また同時に、既に認知されている歴史的風致をはじめ、地域に埋もれている歴史的風致の整理も重要と考えているところであり、本市の未来にとって、どのような取組が最適かを見極めながら関係部局と連携を図り、その必要性や効果について研究を進めていきたいと考えています。



# 新年度予算 産業育成 整備構想

大東 宣之



Q市政の課題についてどのような認識し、新年度予算で課題についてどのように対応するのか伺います。

A少子化対策、企業誘致の推進、小中学校の再編、浄水場やごみ処理施設などの社会インフラの更新に加え、高い水準の物価高騰により、市民生活が厳しい状況にあることが課題と認識しています。

Q物価高騰などから市民生活を支える施策についてどのように取り組むのか伺います。

A国の臨時交付金を活用し、市内企業の賃上げの促進を図る賃上げ促進事業、水道料金減免事業のほか、給食費完全無償化、高校生の通学定期券補助などを継続し、物価高騰などから市民生活を支える施策に取組みます。

Q市内産業の状況についてどのように考えているのか伺います。

A市の産業は分野を問わず、人口減少・少子高齢化の進行により、人出不足や後継者不足が深

刻化し、これらに加え、物価高騰やエネルギー価格の上昇などにより、経営環境は厳しさを増している状況にあります。

Q新たな商品等の開発や販路拡大にどのように取り組むのか伺います。

A地域資源を生かした商品開発と、販路開拓を一体的に進めることが重要と考えています。誘致した企業との連携による商品開発や展示会・商談会への出席による販路開拓など、事業者に寄り添った伴走支援を行っていきたくと考えています。

Qこれからの沼田城跡の発掘調査等はどのようにすすめられるのか教育長に伺います。

A調査のための財源確保、沼田公園をどのようにしていくか市民の合意形成が必要なことなどから、検討していく必要があると考えています。



沼田城跡発掘調査現場

令和8年5月1日号

## 一般質問

## 少子化対策、0歳児から2歳児保育料無償化

星野 妙子



**Q**国の予算が成立し、小学校の給食費が無償化されたのち、子育て支援として課題である、0歳児から2歳児の保育料無償化について伺います。

**A**本市の給食費無償化に充てられていた一般財源は、市全体の事業の優先度や財政状況等を勘案し有効的に活用し、保育料無償化は引き続き研究します。

**Q**人口減少対策について、持続可能な定住につながる、移住者が安心して暮らせる住環境の支援について伺います。

**A**移住コンシェルジュが面談し市内アテンドを行います。住居や土地などの選択支援は、群馬県宅地建物取引業協会沼田支部のご協力をいただき、住まい選びの情報提供を行っています。

**Q**移住・定住促進に直結する地域公共交通の充実、公共交通空白時間帯について伺います。

**A**当市バス路線において、運行時間が短縮され、特に夜間の時間帯に交通空白が生じていることは

承知しています。公共交通の在り方について研究を続けます。

**Q**本市におけるeスポーツに対する認識と新たな地域づくりについて伺います。

**A**競技やクリエイティブ人材育成、福祉分野や多世代交流、地域活性化など、幅広い分野での活用を期待しています。

**Q**国立病院機構沼田病院は、長年にわたり利根沼田郡市民の地域医療のよりどころとして健康や医療を支えていただきました。廃止後、患者や地域住民が安心できる体制について伺います。

**A**地域住民の生活や医療体制への影響を検討し、沼田病院の医療機能を地域全体で継承するため財政的支援、患者・家族・職員への責任ある対応を要望し、真摯に対応するとの回答を得ました。



## 子ども・子育て支援について

齋藤 智



**Q**ファミリー・サポート・センターなど利用につながっていない子育て支援について伺います。

**A**ファミリー・サポート・センターは、「子育てを手助けしてほしい人」と「子育ての手助けをしたい人」が会員となり、一時的な子どものお世話を有料で行う仕組みになっていますので、会員登録や、会員双方による事前打合せ等の手続が必要となります。利用開始までの手続に時間を要する面や、希望する時間帯に調整できる会員がいかななどの理由で、利用につながらないケースが考えられます。

**Q**休日・夜間・急な用事に対応できる支援の現状と今後の取組について伺います。

**A**ファミリー・サポート・センターでは、宿泊の預かりは実施していませんが、休日や夜の時間帯の預かりについては対応しています。また、保護者以外に家族や親族などがいないため、保護者の入院等で、子どもの安全

が確保できないような場合には、児童相談所に相談しています。今後は、より多くの人に、ファミリー・サポート・センターを利用していただけるよう、事業内容や利用方法など、さらなる周知に努め、引き続き、子育て世帯への支援について、研究していきたいと考えています。

**Q**父親の育児参加のための支援について伺います。

**A**妊婦の方だけでなく、そのパートナーの方も対象として、「マタニティセミナー」を開催し、助産師等が、妊娠・出産・育児に関する基礎知識を提供しています。本年度から、「ベビーマッサージ教室」についても、父母双方の参加を可能としましたので、親子のスキンシップを通じて、父親の育児への参加意欲を高める機会となるものと考えています。



# 市政を問う!!

## 池田地区の将来ビジョン、住み続けられる地域づくりに向けて

木内 修一



**Q**農業と森林と観光の連携による地域経済活性化について伺います。

**A**滞在型観光と農業体験を組み合わせた取組の強化について、農作業のお手伝いを組み込んだ「田舎体験ツアー」を実施していますが、さらに滞在型の観光ルートの造成など、関係機関の意見を伺いながら研究していきます。また、地域農産物のブランド力向上のため、戦略的な情報発信を行い、付加価値を高めたと考えています。

**Q**学校統廃合後の校舎の活用について伺います。

**A**学校跡地の利活用については、施設の維持管理コストの抑制と、地域のにぎわい創出の観点から、有効な方策を検討する必要がありますと考えています。「サウンディング型市場調査」を早期に実施し、自由な発想とノウハウを持つ民間事業者からアイデアを募り、新たな利活用の可能性を見いだしていきたいと考えています。

す。また、閉校後も地域コミュニティの核として持続可能な地域づくりが推進されるよう、地域の皆さまとの協議を行いながら池田地区の最大の強みである豊かな自然環境を生かしつつ、地域産業の振興につながる有効な利活用策を検討していきたいと考えています。

**Q**山間地域における住み続けられる環境整備について伺います。

**A**土砂災害防止対策や熊対策については、森林整備を推進するとともに、現地調査を行い被害の削減に努めます。また、人口減少・少子高齢化が進むことから、地域コミュニティの活性化に向けた取組が必要であり、多くの人が集い、交流が促進され、災害時には避難所ともなるような活動拠点は、地域コミュニティにとって必要不可欠であると考えています。



## 水道事業官民連携導入可能性調査、登校支援

高柳 勝巳



**Q**水道事業の官民連携導入可能性調査発注支援業務・要求水準書作成について伺います。

**A**官民連携方式は、従来の仕様発注とは異なり、性能発注を基本とするものです。

そのため、浄水における水質や処理水量のみならず、維持管理水準、責任範囲、リスク分担などを明確に定めた要求水準書の作成が極めて重要となります。

要求水準書が不十分である場合には、事業者の参入意欲を損なう可能性や、本市が期待する成果が十分に確保されない恐れもあることから、専門的知見を有する外部アドバイザーの支援を受けながら、公平性・透明性を確保しつつ、適正な要求水準書の作成を行うものです。

**Q**登校支援策全般の課題と強化すべき取組について教育長に伺います。

**A**学校に登校するという結果のみを目標とするのではなく、社会的に自立する方向を目指し、

家庭・地域・学校とが連携して子どもたちに寄り添い、共感的理解と受容に努めることが大切であると考えています。

今後は、本年度に打ち上げた「誰一人取り残されない！不登校対策『Nプロジェクト』を踏まえ、不登校を減らすための「初期対応」の強化、魅力的な「学校・学級・授業」づくり、校内教育支援センターの設置、不登校児童生徒を支援する教職員や保護者を対象とする「支援者支援」の充実、官民が連携した「地域ぐるみ」の支援体制づくり等に努めていきたいと考えています。



新浄水場建設予定地

# 行政調査

## 報告

沼田市議会では毎年、委員会ごとに先進自治体等の行政調査や管内調査を実施しています。  
今回は、経済建設常任委員会の調査の概要を掲載します。

### 経済建設常任委員会

令和7年11月7日、茨城県土浦市でまちなか定住促進事業について調査しました。

土浦市では平成28年度に立地適正化計画を策定し、駅周辺を都市拠点として設定。都市拠点と病院が立地する地区に都市機能誘導区域を設定しています。

土浦駅周辺では、中心市街地活性化基本計画を策定しており、都市機能の誘導など整合を図りながら取り組んでいます。



土浦市役所での説明の様子

#### 中心市街地活性化基本計画

基本計画における土地利用のゾーニング方針は、市街地をにぎわい、おもてなし、こうりゅうゾーンの3つに分け、これら巡回導線で結び人の流れをつくることを目指していました。

#### まちなか定住促進事業

まちなか定住促進事業では、補助金の制度として主に2事業を実施していました。

#### ○まちなか賃貸住宅家賃補助

中心市街地エリア内の賃貸住宅に住み替える方に1か月分の家賃の2分の1以内、上限2万円補助を行い、最大3年間で72万円までの補助が受けられます。

#### ○まちなか住宅購入補助

中心市街地エリア内の住宅を購入・新築される方に上限50万円の補助を行います。

どちらの制度も市外から中心市街地へ転入した新婚世帯または子育て世帯を対象としています。

#### 所感

第3期計画開始の令和6年度からは、賃貸住宅家賃補助について、学生世帯も対象としてます。また、同じく令和6年度からは、親世帯が市内に在住している世帯について、賃貸住宅家賃補助と住宅購入補助ともに、補助額の加算を実施しています。

本市とは条件が大きく異なるものの、巡回を意識した地域のゾーニングや、明確なビジョンを設定することは、まちづくり非常に効果的といえます。

本市においても立地適正化計画を策定しましたが、今後の都市の姿を見据えて全体を見渡しながらか、どこに、何を、どう集約していくかを定めることや、実現するための手法までを含めた政策としての計画が策定され事業が実施されていくことが望ましいと考えます。

#### 次回定例会の日程

次回定例会は、6月2日(火)からの予定です。

インターネット中継も行っています。



#### 編集後記

入園、入学、進学、就職、またさらなるステップアップに挑まれた皆さまが、時に戸惑いながらも充実した日々をお過ごしのことと思います。そのような中、子どもや若者たちの初々しい姿を目にしますと、春は希望に満ちた季節であることをひしひしと感じ、心なしか気分も晴れやかになる今日この頃です。

新しい環境というのは、子どもや若者たちが直面する大きな変化であり、その成長を見守っていくことが、地域の皆さまに必要とされることと思います。また、世代を問わない互いの思いやりが、地域づくりの礎となるよう期待するところです。

市議会では、今後も皆さまの声に耳を傾けながら、市民の皆さまが憩えるまち、未来を担う子どもや若者たちが、ふるさと沼田でのびのびと学び、生き生きと働けるまちを目指してまいります。

編集副委員長 齋藤育子